

# 令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年2月25日  
函館市立亀田中学校

## 1 本年度の重点教育目標

自分の考えをもち、主体的に学び続ける生徒の育成

## 2 本年度の取組の重点

- 【経営の視点】社会で活かす「しあわせの種（感性・個性）」を磨き、偏りなく、あるべき自分を「見通せる」生徒の育成  
 【経営ビジョン】教師・生徒一人ひとりが～あずましい～環境で、内なる感性や知的好奇心をはたらかせ、最適な自己を「見つめる」学びを促しあう教育の提供  
 【教育活動スローガン】すべての教育活動は「自立共鳴」のために

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
確かな学力（知）	(1) 授業力向上への取組と校内研修の充実	a		A	A	
	(2) 学習規律の確立へ向けた組織的な取組	a		A	A	
	(3) 補充学習等への取組（長期休業中の学習会等）	a		A	A	
	(4) 家庭学習習慣定着への取組（小中連携・マイプラン等）	b	基礎・基本の確実な定着に向けて授業改革による家庭学習習慣の定着を進める必要がある。	B	B	授業を要とした取組を推進する必要がある。
	(5) 学力向上に向けた組織的な取組（前後期制・チャレンジテスト等）	a		A	A	
	(6) 朝読書の工夫・改善	b	学校図書館の有効活用と合わせ、取組等の在り方を見直す必要がある。	B	B	学校図書館の活用の在り方を見直す必要がある。
	(7) ICT機器の効果的な活用	a		A	A	
	(8) 指導と評価の一体化に向けた学習評価の充実	b	学習評価を学習指導の改善に生かすPDCAサイクルの確立を図り、教育活動の質の向上を目指す必要がある。	B	B	指導と評価の一体化の実現に向けて、学習評価の見直しを図る必要がある。
豊かな心（徳）	(9) 組織的・機動的な教育相談及び生徒指導体制の確立	a		A	A	
	(10) 特別支援教育への理解と研修の充実	a		A	A	
	(11) あいさつ運動、ふれあい活動の充実	a		A	A	
	(12) 道徳の時間を中心とした豊かな心を育む取組の充実・改善	a		A	A	
	(13) 生徒会を中心とした自主的活動の活性化（リーダー育成）	a		B	B	縦割り活動等の一層の充実を図る必要がある。
	(14) ICT機器・ゲーム機器の利用への組織的な指導、啓発	a		A	A	
	(15) いじめの未然防止に向けた予防開発的な取組	a		A	A	
	(16) 亀乃間をはじめとする不登校等の対応	a		A	A	
健やかな体（体）	(17) 性教育講話をはじめ、けが防止や健康安全配慮に関する啓発活動の取組の充実	a		A	A	
	(18) 保健体育科および部活動を中心とした体力向上への取組の充実や体育大会の充実・改善	a		A	A	
	(19) 校内の安全点検等、危険箇所の排除	a		A	A	
信頼される学校（信）	(20) SCをはじめ外部関係機関（児相等）との連携	a		A	A	
	(21) 学校だより・学級通信・学年懇談会等による情報発信	b	保護者等への情報発信や情報共有の在り方について見直しを図る必要がある。	B	B	安心メールやホームページを活用した情報発信について、周知方法等を見直す必要がある。

(22) 参観日等の授業の公開や実施方法の工夫・改善	b	行事等の精選を進める一方で、参観日の持ち方等を検討する必要がある。	B	B	学校と家庭、地域がより一層連携・協働できるような行事等の在り方を検討する必要がある。
(23) 危機管理への取組（災害発生時・生徒指導上等）	a		A	A	
(24) 小中連携（授業見学・交流、体験入学・説明会等の実施）の充実・改善への取組	a		A	A	
(25) キャリア教育（職業調べ、職場体験学習）の充実	a		A	A	
(26) 保護者との連携（亀田中学校後援会活動等）の充実	a		A	A	
(27) CS 等、地域と学校が協働的に活動するための組織づくり	a		A	A	
(28) 働き方改革の推進（校務における ICT 活用の推進）	a		A	A	
(29) 校務分掌の再編（SC・LC・PC・OC）	a		A	A	
(30) 部活動運営の改善・効率化	a		A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。